

# Book Review



## 歯周外科を始めるために 知っておきたい 10 のこと

松浦貴斗 著



Reviewer

大月基弘 Motohiro Otsuki  
(大阪府・DUO specialists dental clinic)

A4 判, 104 頁  
カラー  
定価 8,800 円  
(本体 8,000 円+税 10%)  
医歯薬出版刊



松浦先生と知り合ったのは、2022 年の Greater Nagoya Dental Meeting において歯周組織再生療法セッションと一緒に登壇させていただいたことがきっかけである。まだ当時は臨床経験 7 年といったところで、新進気鋭の歯科医師と表現するのが適切であったろう。まだコロナ禍の終わりぎわで、3 密を防ぎながら会を運営されていたのが懐かしと思う。そこから 3 年、男子三日会わざれば、刮目して見るべしというが、この若さにして歯周外科を学ぶ本を出版してしまった。この短い期間にいかに集中して資料なども欠かさずに採取していたかということがよくわかる。

本書は歯周外科ビギナーに向けて書かれており、著者が苦勞して通ってきたであろう道筋を無駄なく、わかりやすく 10 のポイントにまとめ、詳述している。私が読んでいて好感がもてたところは Modified Widman Flap (MWF)、Modified Papilla Preservation Technique (MPPT) や Simplified Papilla Preservation Flap (SPPF) など基本的かつ重要な治療方法についてわかりやすく、丁寧に解説していると

ころである。初学者にとって最初のつまずきとなりやすい、しかし必ずマスターしなくてはならないテクニックについて、模型でのデモンストレーションと症例の両面から視覚的にわかりやすくまとめられている。

そしてその発展形である Minimally invasive surgical technique (MIST) や Modified minimally invasive surgical technique (M-MIST) などについても触れられているが、最小限の症例提示にとどめている。まずは必須項目となるテクニックを身につけてほしいという著者の思いが伝わってくるようである。

次に根分岐部病変についての対応方法であるが、歯周組織再生療法で治療する場合、まずは下顎根分岐部病変 2 度、上顎根分岐部病変頰側 2 度からチャレンジしてほしいというメッセージがあり、そこでアドバンス編として 3 度の根分岐部病変に対するチャレンジな症例提示がなされている。初学者にとって 3 度の根分岐部病変に対する歯周組織再生療法は困難を極めると考えるが、治療の可能性を知り、己の実力を踏まえたうえで、上達する

につれステップアップしてほしいという思いが十分に伝わってくる。

最後の 10 ステップ目は再評価であるが、術後における具体的なセルフケア、プロフェッショナルケアについてタイムフレームごとに解説している。どれだけ手術がうまくいっても術後管理が適切に行われなくては、歯周炎の再発は時間の問題である。歯周炎治療における最も大切な因子は、質の高いセルフケアとプロフェッショナルケアを患者ごとにテーラーメイドして提供し、それを長く継続していくことである。エピローグにも書いてあるが、歯周外科がうまくいき、歯の予後が変わったときには歯科医師、歯科衛生士、患者の皆で喜ぶことができ、それが歯科医院のチーム力を強めることに繋がる。

本書は 20~40 代の若手歯科医師ならびに、歯周外科に対して苦手意識をもっている歯科医師がメインの対象読者となる良書である。本書を手にした方は、チームの歯科衛生士とともに歯周病を撲滅できる医院づくりを行っていただきたい。